

# 立命館

立命館創始130年・学園創立100周年記念  
立命館アジア太平洋大学開学 行事記録

# 立命館

立命館創始130年・学園創立100周年記念  
立命館アジア太平洋大学開学 行事記録  
2000年5月20日 大分県別府市ビーコンプラザ・別府公園



## 刊行にあたって

立命館の創始は、近代日本の代表的国際人西園寺公望が、私塾「立命館」を開いた1869年（明治2年）にあります。そして立命館学園の創立は、西園寺の精神を引き継いだ中川小十郎が、勤労者のための夜学校「京都法政学校」（「立命館大学」の前身）を開いた1900年に溯ります。

爾来100年、今日の立命館は、京都、滋賀、大分、北海道にキャンパスを有し、中学校、高等学校、大学、大学院を擁する総合学園として発展してきました。現在立命館に学ぶ学生・生徒は37,174名、巣立った校友は約24万人を数えます。立命館は21世紀に向けて改革を重ね、躍進する私学として、国の内外から高い評価と関心をいただくようになりました。

このことは、学園の歴史の流れをみますとき、「自由と清新」の建学精神と「平和と民主主義」の教学理念にもとづいて、常に学生の利益を優先してきたこと、優れた人材を世に送り出すべく社会との結びつきを重視したこと、そして民主的な学園運営のもとに絶えず自己改革を追求してきたことによるものと思われまます。

立命館学園は、お陰をもちまして本年5月20日大分県別府市におきまして「立命館創始130年・学園創立100周年記念／立命館アジア太平洋大学開学」式典を執り行うことができました。

式典には、アドバイザー・コミッティの先生方をはじめ、30カ国を越える駐日大使、海外協定大学および国内大学学長・理事長、地元関係者、学園の校友・学生生徒・父母など、約4,500人の方々にご臨席いただき、また、式典会場に隣接した別府公園では、「APU開学祭」が催され、大分県民や別府市民を交えて、3万5,000名を越える参加をいただきました。これら「記念式典」をはじめとしました記念行事は計画の全てにわたり、予想を大きく上回って好評裡に完遂することができました。これもひとえに学園の発展のためにお寄せ頂いた皆様のご支援の賜と存じ、改めて厚くお礼申し上げます。

ここに記念行事を振り返り、本冊子を刊行いたしました。ご高覧頂けますならば、これに勝る喜びはございません。

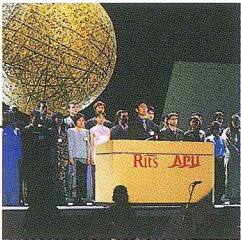
私どもは、次の100年を展望して、21世紀の地球市民にふさわしい、豊かな創造性と人間味あふれ、優れたリーダーシップを備え、人類全体が解決すべき諸課題に真剣に取り組むことのできる人材の養成にいっそう努力する所存であります。

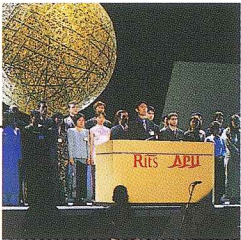
皆様方におかれましては、何卒、今後とも本学園をお見守りいただき、一層の指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2000年10月

学校法人立命館 理事長 **川本八郎**

## 立命館創始130年・学園創立100周年記念 立命館アジア太平洋大学開学 行事記録

2	刊行にあたって	
	● 記念行事概要	
4	記念式典風景	
8	祝賀会風景	
10	記念式典・祝賀会・APU開学祭概要	
	● 記念式典	
13	挨拶	立命館総長 長田豊臣
15	祝辞	国際連合事務総長特別補佐官 ジョン・ラギー 様
16		文部大臣 中曽根弘文 様 (代理 文部事務次官 佐藤禎一 様)
17		大分県知事 平松守彦 様
18		別府市長 井上信幸 様
19		社団法人日本私立大学連盟副会長 早稲田大学総長 奥島孝康 様
20		社団法人経済団体連合会名誉会長 平岩外四 様
21	メッセージ	立命館アジア太平洋大学生代表 大山 高 テイ・シャオ・ブーン
22	謝辞	学校法人立命館理事長 川本八郎
24	来賓ご芳名	
	● 祝賀会	
28	祝辞	ソウル大学長 キージュン・リ 様
29		財団法人新国立劇場運営財団顧問 元文部事務次官 木田 宏 様
30		駐日オマーン国特命全権大使 モハメド・アリ・アルフセイビ 様
31	挨拶	立命館アジア太平洋大学長・立命館副総長 坂本和一
	● 立命館アジア太平洋大学 (APU) 開学祭	
33	ネットアート	
34	交流ステージ	
36	APU学生模擬店	
38	アジアンキッチン・フリーマーケット	
39	学生パフォーマンス・大道芸・「立命館」展・大物産展	
41	学生ステージ・校友会コンサート	
	● 校友大会・校友会コンサート・父母教育後援会総会・APU父母懇談会・APUキャンパス見学会	
44	校友大会・校友会コンサート	
46	父母教育後援会総会	
48	APU父母懇談会	
50	APUキャンパス見学会	



# ■立命館創始130年・学園創立100周年記念 立命館アジア太平洋大学開学 式典

## Memorial Ceremony

### 伝統を受け継ぎ、新たな飛翔のとき——。

立命館創始130年・学園創立100周年、そして立命館アジア太平洋大学の開学を記念した式典・祝賀会を、各界を代表する方々を来賓としてお招きし、2000年5月20日に大分県別府市のビーコンプラザで盛大に開催しました。21世紀を目前に100周年という節目となるときを迎え、歴史と伝統を更に積み重ね、新世紀への新たな飛躍を表明しました。

#### 立命館アジア太平洋大学開学宣言

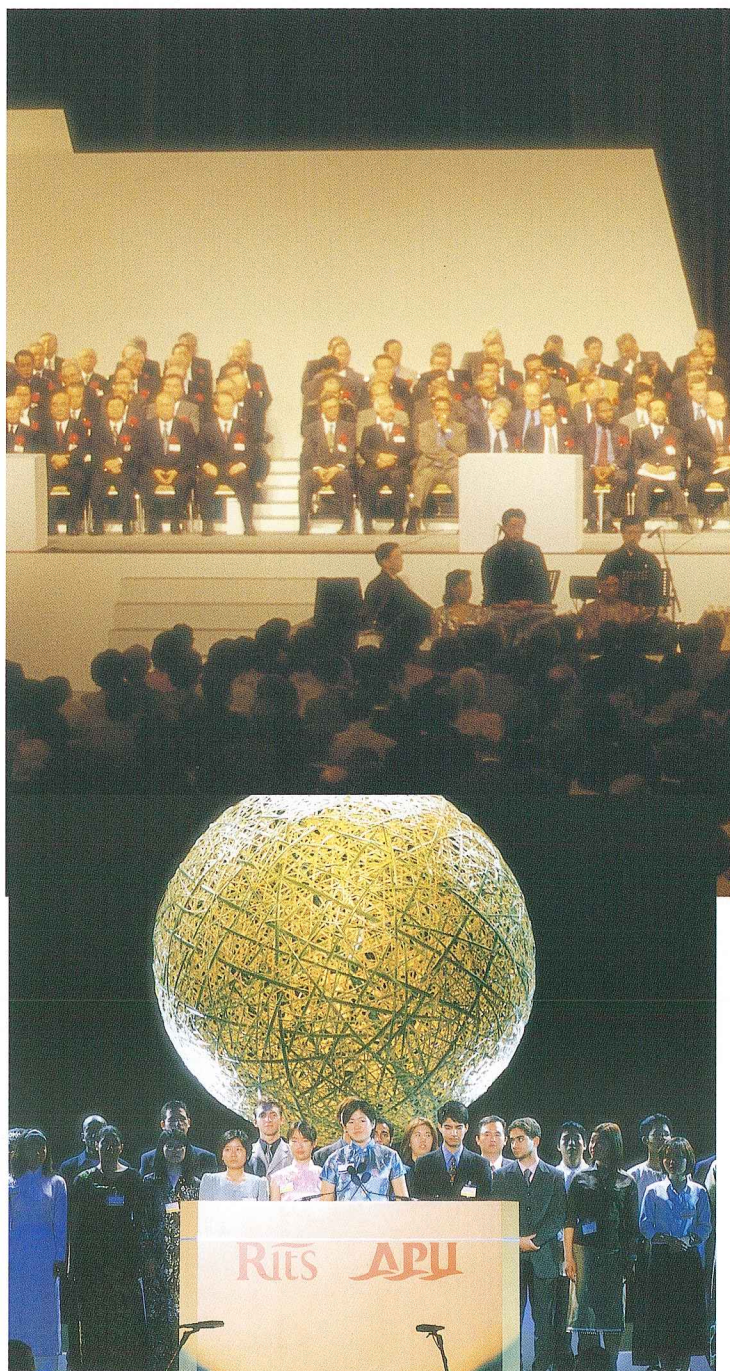
人類は有史以来、地球上のさまざまな地域において自らの文化を築き、文明の進化を求めて多様な営みを繰り広げてきた。人類はまた、さまざまな制約と障壁を超えて、自由と平和とヒューマンイズムの実現を求め、望ましい社会のあり方を追求してきた。

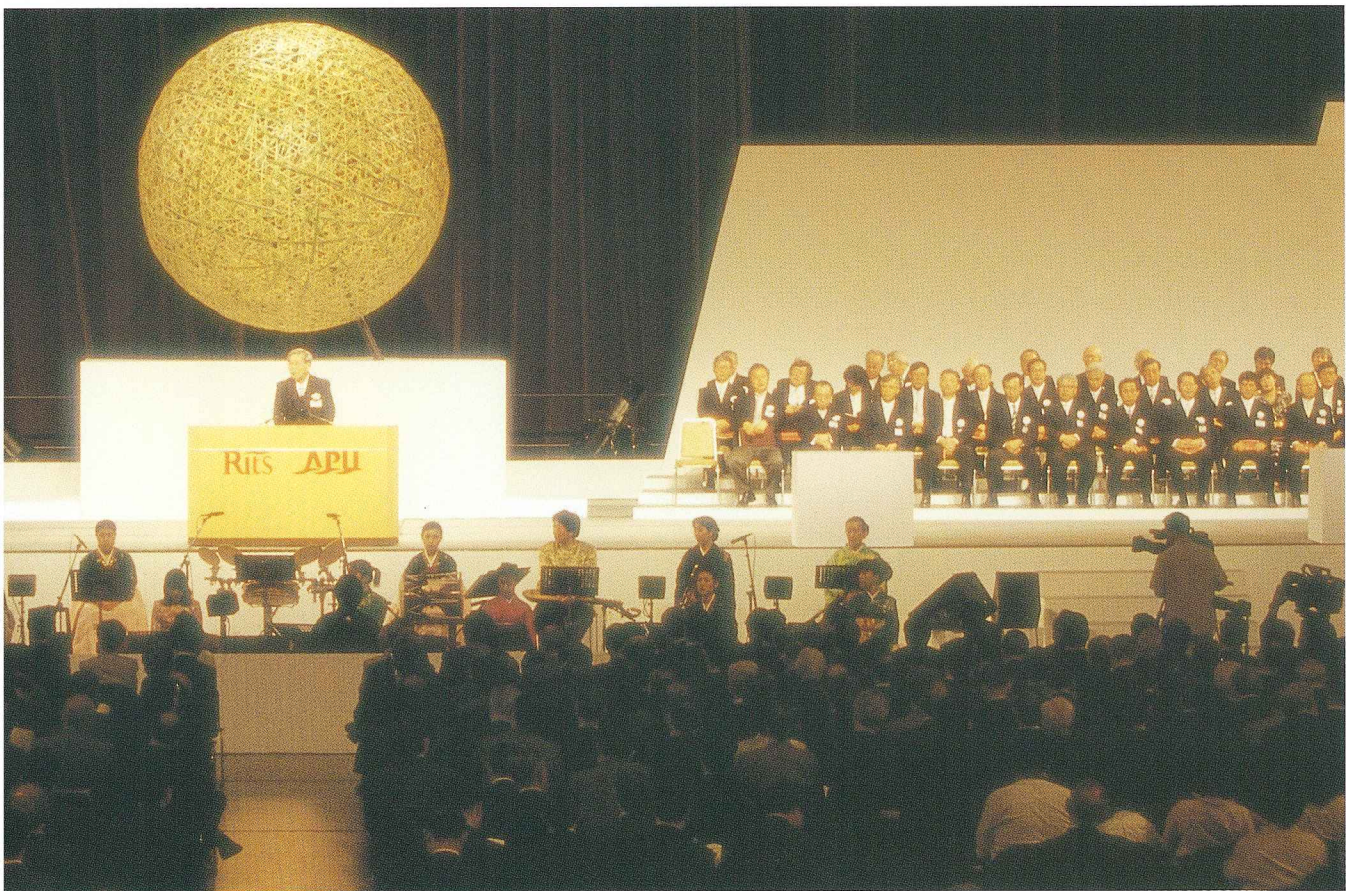
20世紀は政治・経済・文化のすべての領域においてかつてない進歩と飛躍の時代であり、人間の諸活動は地球規模で展開されるに至った。また、二度にわたる世界大戦の経験を通して、国際連合をはじめとする国際協力のための機関が設立され、平和維持と国際理解に向けての取り組みが大きく前進した。

我々は、21世紀の来るべき地球社会を展望する時、アジア太平洋地域の平和的で持続可能な発展と、人間と自然、多様な文化の共生が不可欠であると認識する。この認識に立ち、我々は、いまここにアジア太平洋の未来創造に貢献する有為の人材の養成と新たな学問の創造のために立命館アジア太平洋大学を設立する。

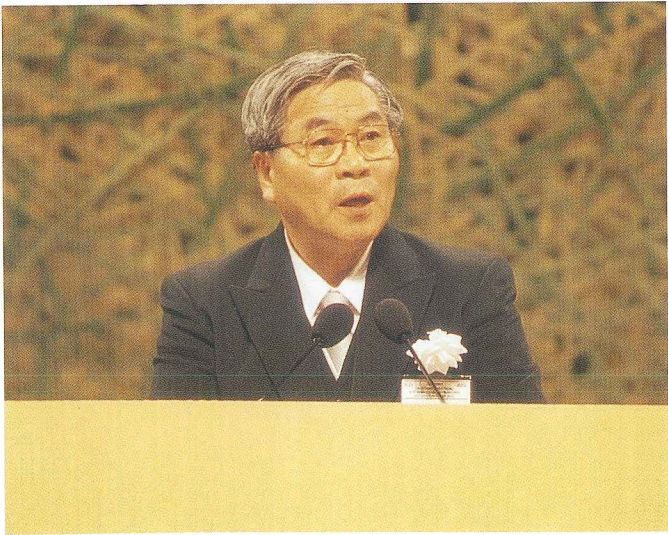
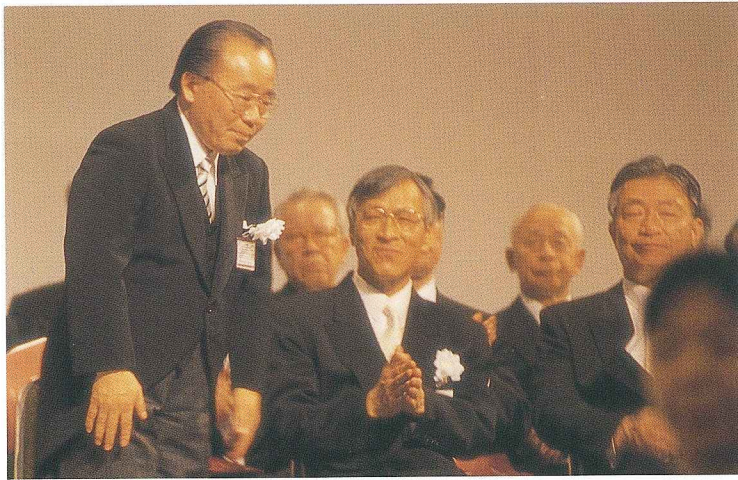
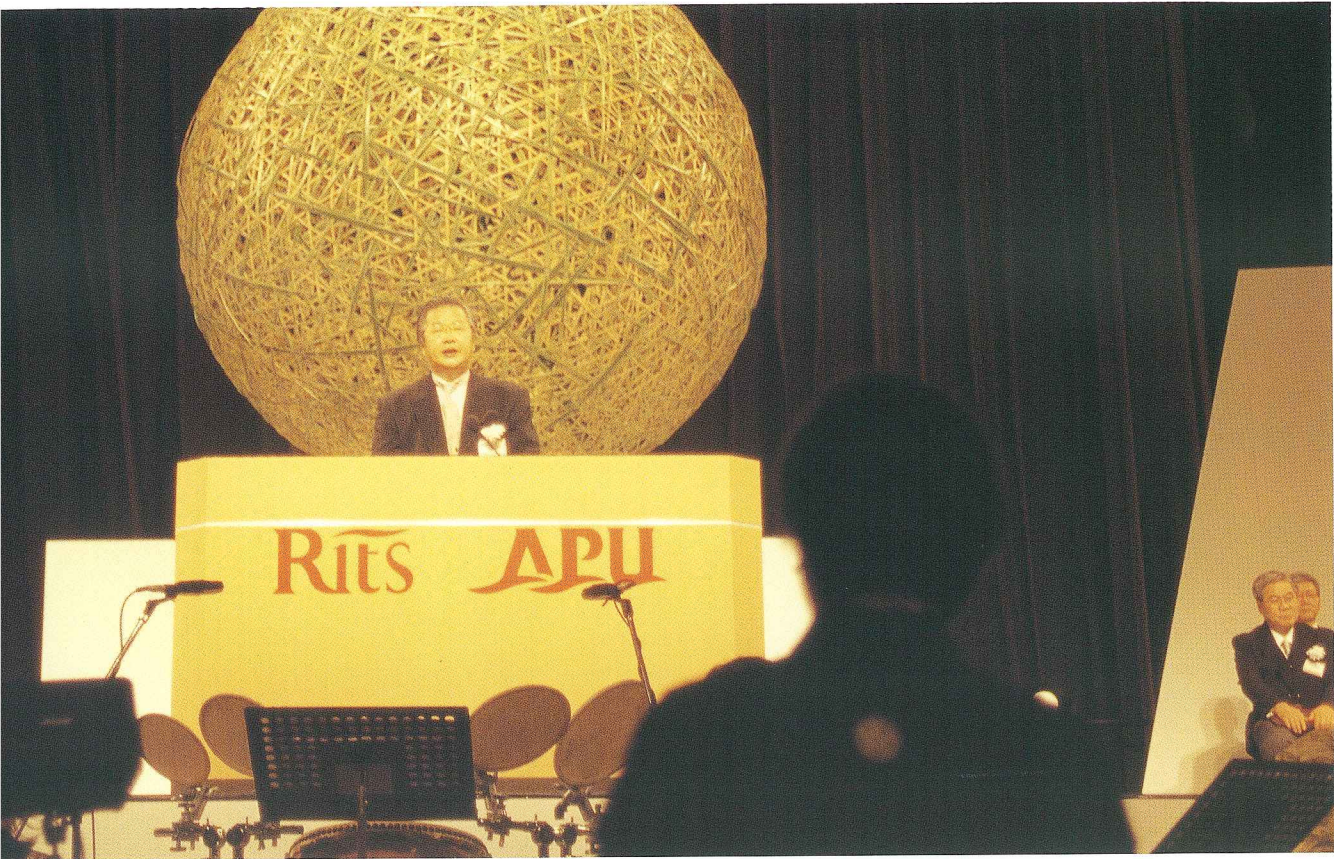
立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマンイズム」「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、2000年4月1日、大分県と別府市、さらに国内外の広範な人々の協力を得て、別府市十字原に誕生した。世界各国・地域から未来を担う若者が集い、ともに学び、生活し、相互の文化や習慣を理解し合い、人類共通の目標を目指す知的創造の場として、立命館アジア太平洋大学の開学をここに宣言する。

2000年4月1日









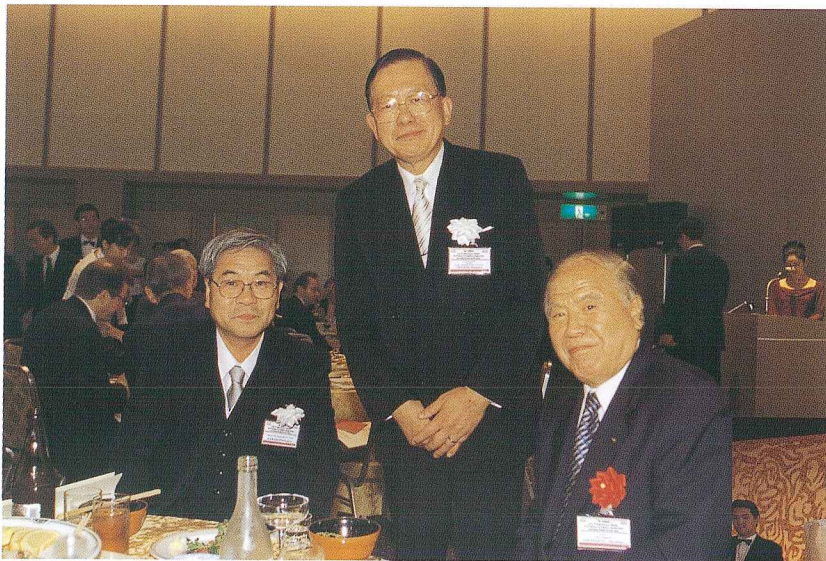
司会 伊藤 昭 立命館アジア太平洋大学副学長・常務理事



# ■祝賀会 Celebration



司会 小林 綾子さん(校友) (左)  
シュラダ・チョウドリーさん (APU学生) (右)



川本 八郎 理事長・大南 正瑛 前総長・平松 守彦 大分県知事



ジョン・ラギー国際連合事務総長特別補佐官夫妻・長田 豊臣総長



坂本 和一 立命館アジア太平洋大学長



2000年5月20日、大分県別府市において、「立命館創始130年・学園創立100周年記念 立命館アジア太平洋大学（APU）開学」記念行事として、記念式典・祝賀会・APU開学祭を開催。あわせて校友大会・父母教育後援会総会・APU父母懇談会・APUキャンパス見学会も行いました。記念式典には約4,500名、別府公園でのAPU開学祭には校友・

市民など約35,000名の方々に参加いただき、学園創立以来最大規模の盛大な行事を開催することができました。

## 記念式典・祝賀会

記念式典は、大分県別府市ビーコンプラザにおいて開催いたしました。

記念式典には、ジョン・ラギー国際連合事務総長特別補佐官、APUに入学した国際学生の出身国を中心に32カ国の駐日大使をはじめ、海外協定大学および国内大学学長・理事長、文部省、外務省、アドバイザー・コミッティ、大分県・別府市の方々、立命館学園校友、父母など約4,500名の方々にご臨席いただきました。

ひきつづいて、国内外からのご来賓を代表して、ジョン・ラギー国際連合事務総長特別補佐官、中曽根弘文文部大臣（代理 佐藤禎一文部事務次官）、平松守彦大分県知事、井上信幸別府市長、奥島孝康日本私立大学連盟副会長・早稲田大学総長、平岩外四経済団体連合会名誉会長よりご祝辞を賜りました。

祝電披露のあと、開学したばかりの立命館アジア太平洋大学に入学した日本を含む28カ国・地域それぞれの代表者が民族衣装を身に纏い登壇し、大山高君（アジア太平洋マネジメント学部）とシンガポール共和国出身のテイ・シャオ・ブーンさん（アジア太平洋学部）が決意を込めたメッセージを述べました。

壇上に設置された大型スクリーンでは、立命館100周年記念映像「立命館のあゆみ」を上映、学園の歴史と教学理念、学園・教学創造の到達点と立命館「第二世紀」にむけての展望を紹介し、21世紀社会の要請に応える高等教育機関として、その役割を担う学園の決意をご参加いただいた皆様にお伝えしました。

最後に立命館学園を代表し、川本八郎理事長が謝辞を述べ、新たな歴史の始まりにふさわしい式典の幕を閉じました。

式典終了後、APU設立にあたって多大な支援・協力を得た国内外のご来賓約300名にご参加いただき、会場をレセプション・ホールに移して、記念祝賀会を開催しました。祝賀会は、立命館大学卒業生で女優の小林綾子さんの司会により開会、協定大学学長を代表して、キージュン・リ ソウル大学長のご挨拶をいただいた後、オープニングにあたり、APUの国際学生シュラダ・チョウドリーさんによるインドの伝統的な舞踊「モクジャ」、大分県の郷土芸能「関の鯛つり唄」が披露され、続いて、木田宏新国立劇場運営財団顧問・元文部事務次官、駐日大使を代表して、モハメド・アリ・アルフセイビ 駐日オマーン国特命全権大使よりご挨拶をいただきました。

大南正瑛前立命館総長・京都橘女子大学長の乾杯ご発声により歓談にうつり、坂本和一APU学長が中締め挨拶を行いました。

### 式次第

オープニング演奏 学園歌	オーケストラ アジア・アンサンブル バリトン 片桐直樹 ピアノ 小椋由美子
開式 挨拶 祝辞	立命館総長 長田豊臣 国際連合事務総長特別補佐官 ジョン・ラギー様 文部大臣 中曽根弘文様 （代理 文部事務次官 佐藤禎一様） 大分県知事 平松守彦様 別府市長 井上信幸様 社団法人 日本私立大学連盟副会長 奥島孝康様 早稲田大学総長 社団法人 経済団体連合会名誉会長 平岩外四様
祝電披露	
メッセージ	立命館アジア太平洋大学生代表
立命館100周年記念映像	「立命館のあゆみ」
謝辞	学校法人立命館理事長 川本八郎
閉式	

記念式典は、中国・韓国・日本の伝統楽器で構成されたオーケストラ アジア・アンサンブルのオープニング演奏と、バリトン歌手片桐直樹さんによる学園歌独唱で幕を開けました。開式にあたって、立命館学園を代表し、長田豊臣総長が挨拶にたち、あわせて、坂本和一立命館アジア太平洋大学長の紹介を行いました。



右:立命館アジア太平洋大学 開学のあゆみ  
中央上:立命館創始130年・学園創立100周年記念  
立命館アジア太平洋大学開学式典 式次第  
中央下:立命館創始130年・学園創立100周年記念写真集 立命館

## APU開学祭

記念式典会場に隣接する別府公園では、同日朝から「APU開学祭」を開催し、約35,000人の市民や学園の校友などで賑わいました。

APU開学から50日あまりが経過したこの日、新しい国際交流の芽が別府の地に根付き始めたことを実感できた一日でした。

会場の芝生ゾーンでは、APUの学生たちがクラス単位で模擬店を出店。韓国のチヂミ、タイ風カレーなど世界各国の料理が楽しめる屋台、貸民族衣装写真館、各国の言語によるネームプレートの作成など、国際色豊かで工夫を凝らした店、34店舗が参加者を迎えました。また、フリーマーケットや市民の方々、立命館学園校友の店も約100店舗を数えました。また、別府市内の幼稚園児約1,000名が協力して、縦4メートル、横12メートルの「ネットアート」を作成、完成した巨大画が会場に掲げられると、観客から大きな拍手が起りました。

ステージ上ではAPU学生がパラオやインドネシアのダンス・庄内神楽などを披露し、民族衣装ファッションショーも開催。あわせて、立命館大学から別府入りした学生のパフォーマンスも行われ、お祭りムードを盛り上げました。夕刻からは、立命館大学OBの歌手ばんばひろふみさんと杉田二郎さん、そして友情出演の小室等さんによる校友大会第二部「校友会コンサート」が行われ、ステージ前の芝生広場を埋め尽くした観客から拍手と喝采が送られました。



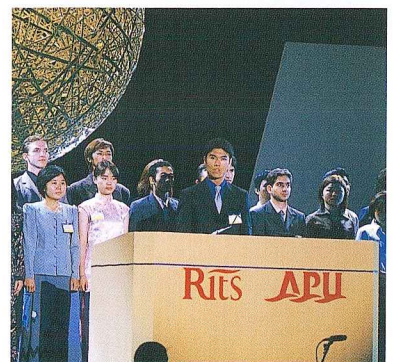
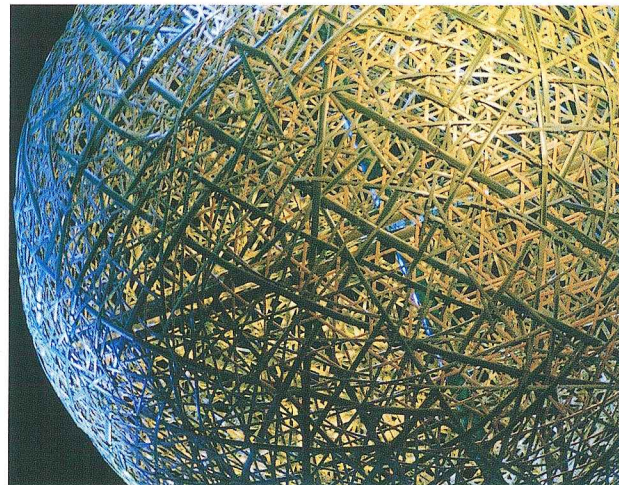
### 開催内容

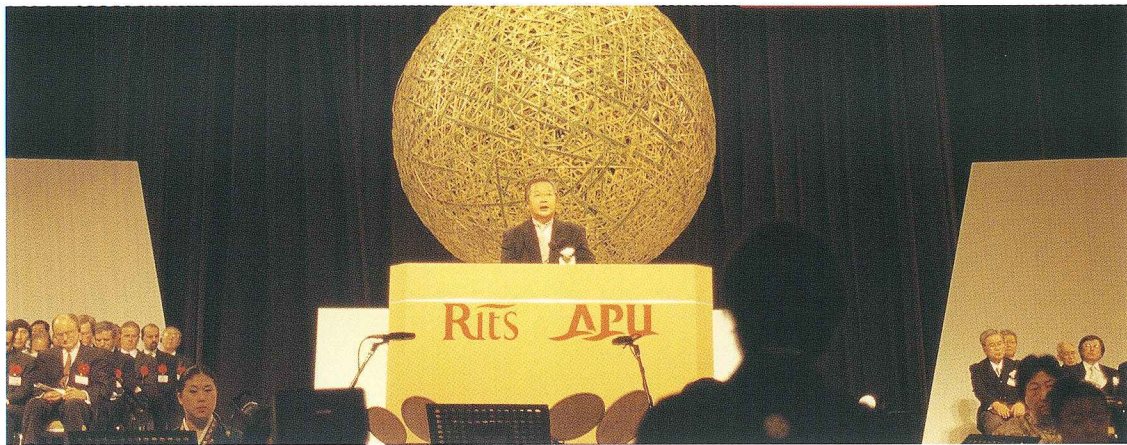
10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
フリーマーケット・アジアンキッチン・APU学生模擬店								
チューヤンと子供たちのネットアート制作			学生ステージ		校友会コンサート			
交流ステージ								
大道芸								
大物産展								
「立命館」展								

立命館創始130年・学園創立100周年記念  
立命館アジア太平洋大学開学 式典

## Memorial Ceremony

21世紀に向けて  
立命館の新しい歴史が今始まる





立命館総長  
長田 豊臣

NAGATA Toyo Omi

## 共生と共存 新しい世界秩序の創造に向けて――

本日、ここに立命館創始130年・学園創立100周年ならびに立命館アジア太平洋大学開学の記念式典にあたり、国内はもとより、世界各地からご多用にもかかわらず、かくも多数のご臨席を賜り、学園を代表して心から感謝申し上げます。

さて本日は、われわれにとって二重の喜びの日であります。まずそのひとつはわが学園が創立100年を迎えたことでもあります。

本学はその創始をわが国を代表するリベラリスト、政治家であり、国際人でもあった西園寺公望の私塾「立命館」に負っており、公の秘書官でありかつその薫陶のもとにあった中川小十郎によって、前途有為の青年のための夜学として、1900年5月19日に京都の地に設立された京都法政学校がその始まりであります。

本学の創始者西園寺公望は22才の若さでパリに遊学し、その間文学者のゴンクール兄弟や、ゴーティエ、音楽家のリスト、後のフランス首相となるクレマンソーの諸氏と交遊を結び、わけでも1871年のパリ・コミューンの激動を目のあたりにして、新しい時代の「胎動」と息吹をその若い精神と肉体にしっかりと刻み込んで帰国しました。帰国後は「東洋自由新聞」を拠点に自由民権運動をリードし、世界主義、国際主義の重要性を鼓吹したことはよく知られています。中川小十郎はこの公望の思想と理念を本学の建学理念として受け継ぎ、また公望の令弟、大阪の住友吉左衛門を中心とする当時の開明派財界人諸氏の財政支援のもと本学を開学したのです。

それゆえ、いま一つのわれわれの喜びは、西園寺公望の精神を100年にわたって脈々と受け継いできた本学が、本格的ボーダレス時代への幕開けを画する20世紀から21世紀へのこの転換期に、今回はアジア太平洋を中心とする世界の有為の青年の為の、わが国初の本格的国際大学、立命館アジア太平洋大学を各界の皆様方のご支援のもと、ここに開学することができたことであります。

申し上げるまでもなく、今日、交通や通信部門における驚異的な技術革新の結果、所謂グローバルイゼーションが急激に進展し、世界は日々狭くなりつつあります。そのなかで従来の国境や狭い国益のみを中心とする20世紀的価値観と行動様式は大きく揺らぎ始めています。そして20世紀を象徴する疾風怒涛の量的拡大をのみ重視する経済発展には、もはや地球は、資源の上からも、環境上からも、耐え得なくなりつつあることは、いまや誰の目にも明らかになってきております。また、排他的に勝ち残ることだけを目的とする単純な競争原理の限界と危険性に対する懸念と不安も、次第に共有され始めております。

もし、20世紀が個人を中心とするリベラリズムの世紀であったとするならば、恐らくは21世紀は多様な価値観や様々な文化の「許容と理解」によって成り立つ共生の時代となるでしょう。もっと厳密に言うならば、ここで言う共生の時代とは、とりもなおさず、対立、異質、多様性を前提とした上で、どうその多様性を人間社会の豊かさの資源に転化していくことができるかを探り、努力する時代なのです。

われわれは、古くはキプリングまで溯ることのできる「西は西、東は東」といったアジアと西洋、オリエンタル（ORIENTAL）とオキシデンタル（OCCIDENTAL）の二分法、さらには開発途上国と高度成熟国の二分法を超えて、共生と共存の所謂 SUSTAINABLE DEVELOPMENT を保証する世界秩序を創り出さなくてはならなくなってまいります。

このような21世紀の時代的要請に応えて、新しい時代の価値観と共生の作法をさぐり、そのための知的訓練と方法論の構築を、さらにはそれに基づく人材養成を目的としたアリーナのひとつを、アジア太平洋を中心とする世界の青年に提供しようとするのがこの大学の建学の理念であります。

このような大学の必要性は、これまでにいろいろな場所で、そして様々な人々によって夢として語られてきました。しかし、その「夢」が今、ここ大分、別府の地で多くの人々のご支持とご協力のもとにひとつの現実となったのです。しかも、それが「民」の活力に依存する「一私立」の教育機関によって、しかも、県や市という地域自治体によるご支援と、時代の先を見通すことのできる経済界、政界そして行政のリーダーの方々のご協力によって、国民的「夢」がここに一つの確かな現実となったことに計り知れない意義があるとわれわれは考えます。

また、この立命館アジア太平洋大学が東京や京都でなく、ここ九州、大分の地に開学されたということの意義も、ここで強調しておきたいと思えます。たしかに、ここ九州は東京からは、遠く離れているかも知れません。しかし、アジアに視点を置くと、ここ九州はアジアに最も近い場所であるだけでなく、歴史的にも日本のアジアへの扉として最も重要な役割と位置をもち続けてきた場所であり、geopolitical な意味からも決定的に重要な場所なのであります。

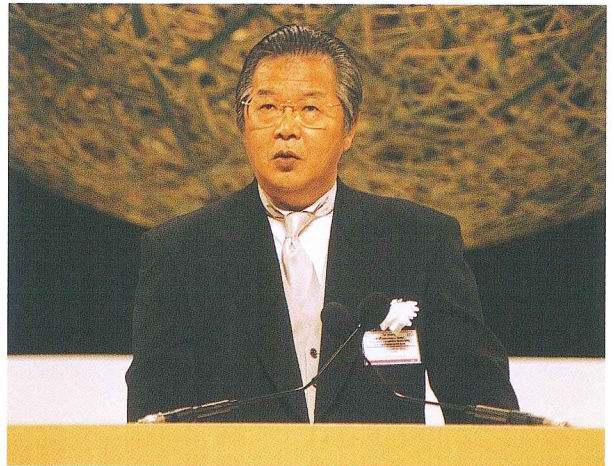
それに加えて、この立命館アジア太平洋大学の試みが、従来の高等教育政策から、もっと自由で個性ある「民」のエネルギーに依拠したより柔軟でダイナミックな高等教育政策へのわが国の転換の一つの機会となることをわれわれは強く期待しております。そしてそのことが今まさに大きな変革の時期に直面している日本の高等教育機関に社会の現実に対する真の意味でのアクチュアリティを回復していくための重要な契機となるであろうことを、われわれは確信します。

冒頭に申し上げましたように、この立命館アジア太平洋大学の開学は単に立命館の100周年記念の事業にとどまるものではなく、わが国の高等教育の21世紀でのあり方

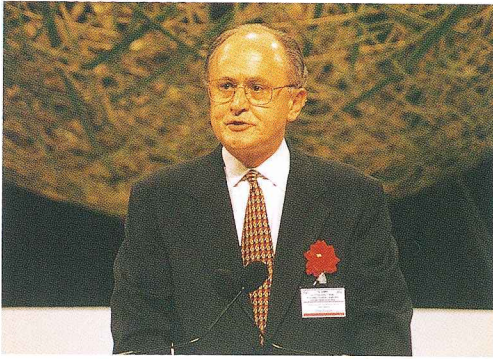
に深くかかわるものであり、また、同時に、長期的なスパンでの世界とわれわれのかかわり方にも間違いなく一定のインパクトを与えようものではないかと思っております。

夢と将来性に満ち満ちたプロジェクトをかくのごとく現実のものとするうえで、大胆な決断とご協力を惜しまれなかった平松知事に代表される大分県、井上市長と別府市、そして陰に日向にご支援・ご協力をいただいた社団法人経済団体連合会名誉会長平岩外四先生やアサヒビール株式会社名誉会長樋口廣太郎先生をはじめとするアドバイザー・コミッティの先生方に深く感謝の意を表します。また立命館アジア太平洋大学の創設にかかわって、申請から認可に至るまで、適切にご指導いただいた文部省に対しましても厚くお礼申し上げます。学園の決意表明とお礼の言葉に代えさせていただきたいと存じます。

皆様、本当に有難うございました。今後もぜひよろしくご支援の程、お願い申し上げます。



## Congratulatory Speeches



国際連合事務総長特別補佐官

ジョン・ラギー 様

John Ruggie

### 「人間家族」の一員として 今日とは異なった明日を作る

学長、来賓の皆様、そして、ご列席の皆様。

私は、別府市、日本そしてすべてのアジア太平洋地域の諸国にとっても非常に特別な意味を持つこの式典において、コフィ・アナン国際連合事務総長からの最も親愛なる挨拶と祝意とをまず皆様方にお届けしたく存じます。

本日、皆様方は三つの非常に重要な達成を同時にお祝いしているわけであります。すなわち、京都における130年前の西園寺公望公による立命館の創始であり、100年前の同所における立命館学園の創立であり、そして、高等教育と国際理解のためのきわめて斬新な試みである立命館アジア太平洋大学の公式的な開学であります。

その当初より、立命館は、日本の歴史において一つの実り豊かな役割を果たしてきているということが出来ます。すなわち、自由の哲学に根差した民主主義、共通のヒューマニティー、そして平和に向けられた声がそれです。その著名な政治生命の過程において、西園寺公は、自由主義と国際主義とを標榜され、これらの進歩的な原理の発揚を求めました。大学として、立命館は、何世代にもわたる日本の学生のため、高度に成功した教育的経験の中にそれらの原理を体現してきました。

アナン事務総長は、本日、私がここに出席して、立命館の過去におけるさまざまな達成を慶賀すると同時に、今ここにおいて皆様方が取り組もうとしている新たな使命に対しても賞賛と支持とを皆様にお伝えするように、と申しております。立命館アジア太平洋大学は、お互いについて、また、我々のこの小さな地球において営まれている分かち合いの生活について共に学ぶことによって、様々な人々を教育する大学です。現在のようにグローバル化が進行し、全世界を通じて前例のない相互依存が必要である時代において、皆様方はより大きな相互理解・尊重に貢献

しているものであり、それによってこそ共通の目的を追求する人間の能力が協働することができるかどうかが決まるものなのです。

立命館アジア太平洋大学の開学は、日本が世界において果たしている重要なリーダーシップの役割を反映するものであり、それはマルチラテラリズム（多方向主義）を支持し、世界の貧困と戦うものであり、平和的手段によって国際的・国内的紛争を解決するのに役立っているのです。このような日本の役割が最も評価されている場所が国連であり、また国連事務総長ご自身によってであるのです。

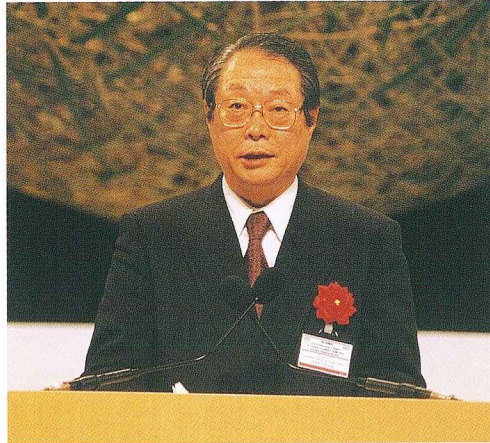
本日ここにお集まりの若い友人の皆様に対して、私は申し上げたいのですが、上に述べた挑戦の多くは依然として解決されていませんし、新たな問題が毎日のように生じてきているのかも知れません。皆様や私など、また工業化された諸国の市民の多くが、比類なき富を享受している一方で、途上国の兄弟姉妹の半数が、一日400円程度で、また12億人が一日200円未満の費用で生存のための試練にさらされているのです。全人類の5分の1が、安全な飲料水を利用することができません。戦争は、依然としてあまりに多くの貧国を破壊し続けています。サブ・サハラのアフリカでは、エイズ（HIV/AIDS）の急速な蔓延が、健康と寿命における全世代の増加価値を逆転させようとしています。そして、その流行は世界の他の部分にも広範に拡大しているのです。さらに、まさしくグローバル化の諸勢力や情報技術革命が世界を変えつつあると語る場合においても、東京にはサハラ以南のアフリカにおけるすべての電話台数以上の電話があり、アメリカ合衆国にはその他の世界をすべて足した場合より多くのコンピュータが存在している、ということをお我々は忘れてはなりません。

皆様をお願いしたいことがございますが、それは、皆様自身が今日とは異なった明日を作るために今日の1日1日をご精進いただきたい、ということです。国際的な大学の学生として、その他の違いがどのようなものであろうとも、我々すべてが一つの人間家族の一員であるということ、皆様は何人にもましてご存知だと思います。我々は、ある一部の人々のためではなく、すべての人々にグローバル化が恩恵をもたらすような世界に向かう道を皆様が進まれるよう期待しています。そのような世界とは、平和と安全が少数の者のためにではなく、多数の者のために定着することとなり、特権を持った者だけにでなく、あらゆる人間に対してあらゆる場所で機会というものを与えられる世界なのです。

これらの諸価値のためにこそ国際連合が存在するのであり、また立命館アジア太平洋大学が標榜する価値もそこにあるのです。それらを現実のものとするため、一緒に努力しましょう。

最後にもう一度お祝いの言葉を申し上げると同時に、皆様方のご健勝を祈念する次第です。





文部大臣  
中曾根 弘文 様 NAKASONE Hirohumi  
(代理 文部事務次官 佐藤 禎一 様)

## 意義深く時宜にかなった 大学改革の取り組み

本日、ここに、立命館アジア太平洋大学開学記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

立命館は西園寺公望先生が「自由と清新」という精神の下に開かれた私塾「立命館」を淵源とし、明治33年にその名称と精神を受け継いだ中川小十郎先生によって「京都法政学校」として創立されました。その後、明治、大正、昭和、そして平成の今日を迎えるまで一世紀にわたって時代の変化に的確に対応し、数多くの人材を世に輩出してこられました。

21世紀の来るべき地球社会を展望する時、アジア太平洋地域の平和的で持続可能な発展と、人間と自然、多様な文化の共生が不可欠であります。

今回開設されました「立命館アジア太平洋大学」では、「アジア太平洋学部」と「アジア太平洋マネジメント学部」において、学生の半数を占める世界約50カ国・地域からの留学生と国内学生との交流、英語・日本語の二言語を併用した斬新な教育システムの構築などにより、日本とアジア太平洋、アジア太平洋と世界を結ぶ「知」の拠点を目指しておられます。

これら一連の大学改革への取り組みは誠に意義深く、また、時宜にかなったものとして、各方面から大きな期待と注目が寄せられているところであります。

今後、本学が、大学の理念として掲げられた「自由・平和・ヒューマニズム」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」の実現に向け尽力され、国際社会に貢献する大学として、発展されますことを、心から希望するものであります。

終わりに、本学の開設に至るまでの、理事長、総長をはじめ、関係の皆様のご御努力及び地元大分県、別府市の御支援に対し、深く敬意を表しますとともに、今後も一体となって、本学の輝かしい未来を築き上げられますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



大分県知事  
平松 守彦 様 HIRAMATSU Morihiko

## 大分から世界へ 全県の活性化に大きく寄与するAPU

立命館創始 130 年及び創立 100 周年並びに立命館アジア太平洋大学の開学にあたり、お祝いを申し上げます。

平成 7 年 9 月に立命館アジア太平洋大学の新設が公表されて以来、4 年半という極めて短い期間であったにもかかわらず、今春、予定どおりの開学を迎えられました。これもひとえに立命館の皆様のご努力はもとより、アドバイザリー・コミッティの委員を始め、各界各層の皆様からのご支援・ご協力の賜物と、心から敬意を表します。

さて、来る 21 世紀は「アジアの時代」と言われています。かねてより本県では、一村一品運動を通じた地域づくりのノウハウの交換やアジア九州地域交流サミットの開催、2002 年ワールドカップ日韓共催などを通じて、アジアの多くの地域との交流を積極的に推進しています。

立命館アジア太平洋大学の開学は、「アジアとの共生」をめざす本県と、「アジア太平洋地域を担う国際的人材の育成」を目標とする立命館の考えが一致したことによるもので、本県にとりましては、アジア太平洋地域の人材育成の拠点として飛躍するための大きな一歩となります。また国際交流、観光交流の上からも大きな役割を果たすことが期待され、別府市のみならず、本県全体の活性化に大きく寄与するものと確信しています。

本県といたしましても、立命館の皆様の地域に愛される素晴らしい大学づくりに向けた情熱にお応えするために、また学生の皆さんが、第二の故郷として良い思い出をたくさん残していただけるよう、引き続き支援してまいりたいと考えております。



別府市長  
井上 信幸 様

INOUE Nobuyuki

## 別府新時代到来の象徴 APUの開学

地元13万別府市民を代表いたしまして、お祝いのごあいさつを申し上げます。学校法人立命館関係者の皆様、ご来賓の皆様、立命館創始130年、学園創立100周年、そして立命館アジア太平洋大学開学、誠にめでたうございます。まず、この栄えある世紀の祝典をわが別府市で開催いただきましたことを、心から厚くお礼申し上げます。また、日本に例を見ない、本格的な国際大学であるAPUの本市開学に当たりまして、多方面にわたりご尽力を賜りました川本理事長はじめ立命館関係者、文部省、APUのアドバイザー・コミッティの皆様、平松大分県知事に対しまして心からお礼を申し上げます。

おかげをもちまして、わが別府市は、アジア太平洋の時代といわれる21世紀に向けて、市政の重要な柱の一つであります。「国際化」の道を力強く踏み出すことができました。私は去る4月3日に、APUの入学式にお招きをいただき、祝辞を述べさせていただき、栄に浴しましたが、美しいキャンパスに集う、世界各地からの若い皆さんの希望に満ちた、明るい姿に接して、これこそわが別府の新しい時代の到来を告げる象徴であると、深い感動を覚えたのであります。

あのケネディ大統領が言われた「この世に大学ほど美しいものはない」という言葉を、あの時ほど実感したことはありません。美しい学舎は立命館の逞しい伝統から生まれた21世紀の精神「国際貢献」から生まれたものであります。ここに私はまた、貴学の長年にわたる高等教育機関と

しての優れた伝統と信念の象徴を感じて胸を打たれたのであります。日本近世史上稀に見る大政治家であり、また卓越した文化人であられた西園寺公望公を学祖に仰ぐ、立命館精神が、ミレニアムに花咲かせたのがAPUであります。APUはまた、別府市はもとより大分県の、そして日本の貴重な財産であり、私たちは立命館と協力しながら、この財産を大事に育て、立派に花咲かせようと考えております。

立命館はこれまで各界に優秀な人材を数多く送り出された日本有数の名門学園であり、その波がこれからはさらに国際的に幅広く広がっていかうとしております。こうしたことを考えると、学校法人立命館の前途はまことに明るく、本市も貴学の発展のために、いささかでもお役に立ちたいと考えております。

遠方からこの祝典のためにおみえいただいた皆様、この機会に、大分の豊かな自然とその自然が育んだ『一村一品』の料理を味わっていただきたいと思います。

その後、日本一の温泉であります別府の温泉にゆったりと浸かっていただき、おくつろぎのひとつをお過ごしください。

また、お時間が許せば、温泉情緒溢れる別府の町を散策していただければうれしく思います。

最後になりましたが、学校法人立命館の今後の益々のご発展とご繁栄、ご出席の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ごあいさつといたします。ありがとうございました。



社団法人日本私立大学連盟副会長  
早稲田大学総長  
奥島 孝康 様 OKUSHIMA Takayasu

## 日本の未来を創る大きな原動力 立命館の試み

立命館創始130年・学園創立100周年記念 立命館アジア太平洋大学開学式典の開催を、同じ志をもつ私大の仲間として心からお慶び申し上げます。そして何よりも、アジア太平洋地域との共生をめざす本格的な教育研究を、貴学とわが早稲田大学とが手を携えて開始できる態勢が実現したことを慶び、待ちに待った貴学の開学を心からお祝い申し上げる次第です。

立命館大学は、これまで第1次から第4次までの長期計画のもとで、他大学に先駆け、全学を挙げて大学改革に取り組んでこられました。そして、最近では、びわこ・くさつキャンパスの開設やそのキャンパスを中心とした産官学交流事業の展開、大学教育の全面的な改革の実施等、常に大学関係者のみならず社会全体から注目を浴び、私学の一方の旗頭としての不動の地位を築き上げてこられました。

現在第5次長期計画を展開されておりますが、その中核を成すものが立命館アジア太平洋大学であり、本大学の開学を機に、貴学の建学の精神である「自由と清新」、また、教育研究の理念である「平和と民主主義」をさらに前進させ、21世紀へ向けて貴学の発展の強固なる基礎を構築されました。

さて、このたび開学された立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、全学生の半数が留学生、教員スタッフも半数が外国籍という、アジア太平洋地域で初の本格的な国際大学として、その斬新さは、準備段

階から国の内外を問わず、注目的でありました。そして、その実現に向けて、教職員の方々が一丸となって海外に向き、留学生の確保に奔走され、実際に質の高い学生が多数入学されたと伺っております。

このように本大学の開学にあたって、長田豊臣総長、坂本和一立命館アジア太平洋大学長をはじめとする関係各位の並々ならぬご尽力に深い敬意を表するものであります。

来るべき21世紀はアジアの時代とも言われている今日、アジア諸国の若者と同じ高さの目線で異文化間コミュニケーションのスキルを身につけることは、日本の次代を担う若者にとってきわめて重要であります。そうでなければ、日本はアジアから、否、世界からも孤立しかねないでしょう。

そういう意味でも、立命館アジア太平洋大学は、立命館大学にとって21世紀へ向かう発展の象徴として、アジア太平洋諸国と真に共生しうる人材の育成に大きく貢献するとともに、日本の未来を創る大きな原動力となるものと確信しております。

早稲田大学でも同様のコンセプトで、アジア太平洋地域におけるヒューマンネットワークとメディアネットワークの構築をめざして、独立大学院であるアジア太平洋研究科を1998年に、また国際情報通信研究科を本年4月に設置いたしました。また本学は、2003年4月に、北九州市で、独立大学院「先端技術デザイン研究科」（仮称）の開設を予定しており、現在準備を進めておりますが、貴大学と共に、同じ九州の「出島」からアジア太平洋地域へ情報を発信できる大学になりたいと考えております。

ところで、私は私立大学は建学の精神に基づいた「志立」大学であるべきであると考えております。そして、これからのグローバルな大学間競争の中で、各大学がそれぞれその個性を伸ばしつつ、志を同じくする大学との間でコンソーシアムを形成して、国内はもとより海外の有力な大学との間でも相互に補完し合っていくという方向性は、今後ますます重要になってくるのではないのでしょうか。そういった観点で、貴学と本学とが、「アジア太平洋地域との共生」をめざして、よきパートナーとしての協力を深めていきたいと願っております。

最後に、貴学が本日の式典を節目として、この100年間の輝かしい伝統を礎に、21世紀へとますます発展し、また立命館アジア太平洋大学が新世紀の学府の象徴として大きく飛躍されることを心から祈念いたします。



社団法人経済団体連合会名誉会長  
平岩 外四 様 HIRAIWA Gaishi

## 国際感覚を持ち地域の平和と繁栄を実現するリーダーの育成を

本日は、立命館の創始130年、学園創立100周年、立命館アジア太平洋大学開学の式典にお招きを賜り、大変光栄に存じます。

このように盛大な式典が、内外から多数のご出席を得て開催されますことを心からお祝い申し上げます。

立命館は、この100年の間、わが国の私学を代表する教育機関として、常に改革を進め、これまで多くの有為の人材を輩出されました。とくに戦後の立命館の充実と発展は目覚ましく、その実績には輝かしいものがございます。そして特筆されるのは、この度の立命館アジア太平洋大学の開学であります。

立命館アジア太平洋大学の開学に際して、その場所に最もふさわしい処として、100年の伝統と歴史を有する立命館の所在地京都ではなく、この大分県別府市が選ばれましたことは、平松知事を始めとする大分県民の皆様、井上市長を始めとする別府市民の皆様のご決断によるものと、心から敬意を表する次第でございます。

今日、世界の中で、多くの課題を抱えながらも発展が期待され、希望に満ちた地域の一つはアジア太平洋地域であります。この地域は、豊かな資源や自然環境に恵まれ、加えて未だ発掘されていない優れた人材の宝庫でもあります。そうした中で、21世紀のアジアと世界の将来を考えると、いま必要なのは、国際感覚を持ち、この地域の平和と繁栄を実現していくことのできるリーダーであります。他の地域や国々の多様な文化と価値観を理解する力を持ち、物事を多面的に見ることのできる優れた人材であります。

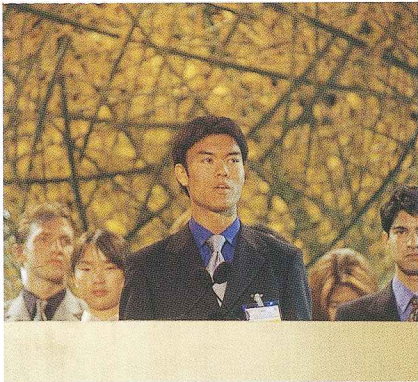
一方、日本の大学も、経済成長とともに複雑化した社会に的確に対応しうる人材の養成と、そのためのシステムの改革が求められております。その意味で、次の世紀に向かって歴史を継承していく私たちは、21世紀を担いうる人材を育成する本格的な国際大学の開設を待望してまいりました。

このような中で、開学されました立命館アジア太平洋大学の目的と構想は、非常に壮大であり、いわば国家的事業であると申せます。地方自治体と私学が一体となり、これを民間企業が支援し、さらにアジア太平洋地域の各国の協力を得て創り上げるところに、新しい積極的な意味があると考えます。是非、このアジア太平洋大学に、多くの国の関係者が関心を持っていただくことを切望致します。それが、日本の高等教育発展のためにも必要なことと信じております。

終わりに、立命館学園の創立100周年記念を重ねてお祝い申し上げますとともに、未来志向の立命館アジア太平洋大学のこれからの成功を心よりお祈り申し上げ、私のご挨拶と致します。

本日は誠にありがとうございます。

Message



立命館アジア太平洋大学生代表  
大山 高



立命館アジア太平洋大学生代表  
テイ・シャオ・ブーン  
(シンガポール共和国出身)

## 新たなる世紀への 大航海に旅立つ

私は立命館アジア太平洋大学の学生を代表して、本日のような歴史的式典にご挨拶を申し述べる栄誉を与えられたことを心より誇りに思います。

ご列席のみなさま、今、私たちはAPUという船に乗って、新たなる世紀への大航海に旅立とうとしております。これまでの人類史においてなしえなかった真の平和と繁栄を必ず21世紀にもたすために、アジア太平洋という大海原に向かいます。

私たちは、具体的提案と行動によって、世界を現実的に動かす力を持たなければならないと思います。そのためにAPUにおいて世界中から集まった学生たちとともに、あらゆる文化や価値観を交流しあい、強い個性をぶつけあい、学問研究を通じて互いの見識を高め、強靱な知性としなやかな行動力、そしてどこにいてもネットワークを形成できる力を身につけたいと思います。

これまで幾多の困難を乗り越え、営々と100年にもおよぶ航海を続け、APUの旅立ちを準備してくださった23万名におよぶ立命館学園の先輩のみなさま、どうかこれからは私たちに對する厳しくかつ暖かいご指導をお願いいたします。

また、本日で列席の日本政府および国際機関・世界各国地域を代表する大使・学長のみなさま、アドバイザー・コミッティのみなさま、大分県民、別府市民のみなさまに感謝を申し上げつつ、今後とも私たちを激励していただきますようお願い申し上げます。

21世紀には、国際社会に対して、「大きなプレゼント」ができるよう学生一同努力することを決意して、挨拶とさせていただきます。

## 世界に誇る多文化主義の伝統を 築き上げていきたい

ご来賓の皆様、こんにちは。私たちは、今日、ここに立命館学園創立100周年、そして、立命館アジア太平洋大学開学の特別な企画を記念するために参りました。

APUは、これまでにない多くの国際学生が集うという点で、4月の入学式以前から、メディアや日本の社会から注目を集めてきました。APハウスでの生活では、時々、日本にすることを忘れてしまいます。それどころか、国連の縮図に在るようで、グローバル化する社会を象徴しています。事実、ここAPハウスでは、3カ国語以上の言葉での会話でないと成り立たないことに気づきました。

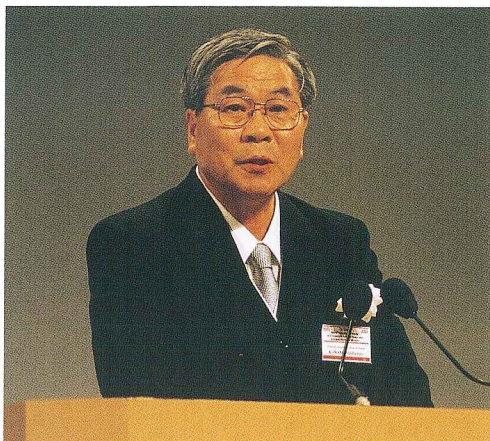
私は、文化と民族の多様性で知られるシンガポールからきたので、APUの目指す、文化交流を通じての、自由、ヒューマニズム、平和、そして国際相互理解創造の重要性がよくわかります。

多くの民族、文化からなるアジア太平洋地域は、民族紛争が絶えません。したがって、アジア太平洋地域が、有望な経済・文化の中心となるためには、私だけでなく多くのAPUの学生たちが、この地域に関する深い理解を身につけなければなりません。もちろん、私たちは、世界各国の料理の作り方など、他にもたくさんのことを学びたいと考えています。

私のAPUでの経験は、刺激的で充実しており、それはこれからも続いていくことと思います。周囲の人達は、私がAPUに入学することを心配していましたが、私は、将来自分の歩んできた道を振り返ったとき、「決して後悔しない！」という自信を持っています。

将来どの進路に進んでも、どこへ行っても、私達はこの大学で学んだことを活かしていけるとと思います。ここ別府に集った私たちAPU第一期生は、APUと共に生き続ける多文化主義の伝統をこれから築きあげていきます。ありがとうございました。

## Closing Remarks



学校法人立命館 理事長  
川本 八郎 KAWAMOTO Hachiro

## 世界の人々に信頼される営為と誇り高き行動をめざして

式典の終わりにあたりまして、学校法人立命館を代表して、御礼のご挨拶を申し上げます。

本学、創立100周年記念式典、立命館アジア太平洋大学開学式典に、かくも多くの皆様が、ご多忙にもかかわらず、日程をご都合いただき、また、遠路より足を運んでいただき、まことにありがとうございます。

国内外で、重要な任務を担っておられるご来賓の諸先生方をはじめ、皆様方に、心より御礼申し上げます。各界を代表して、ご来賓の先生方から我が学園に対し、心温まるご祝辞を賜り、ありがたく感謝申し上げます。

1900年5月19日、京都法政学校として中川小十郎が、立命館大学を開学し、いま、私どもは100周年を迎えることができました。

私学立命館100年の歴史は、必ずしも恵まれた月日ばかりではありませんでした。

私どもの先達が歩んで参りました道は、その時代時代の多くの皆様方からご支持をいただきつつ、山また山を越え、谷また谷を渡って、私学危機克服の歴史であったといってもよいかと思えます。

例えば、危機の一つは、第二次世界大戦直後における我が学園存亡の危機でありました。この危機を克服した教訓は、新しい我が国の在り方を見定めつつ高等教育機関のひとつとして、社会的責務を果たしていく長期的方針と体制を樹立したことにあります。

第二の危機は、皆様もご存じのとおり、1960年の末から1970年代はじめの、あの嵐のような学園紛争であります。

本学の学園紛争解決の教訓は、教育・研究機関である大学においては、一切の暴力、一切の暴力行為は許さないということです。暴力は理性の喪失であります。したがって、それは、人間の敗北であります。そういう原則的考え方を全学の共通の認識に高めたことが、教訓でありました。

私の持論でございますが、田畑をはなれて、鋤鍬を捨てるならば、農民は農民たりえない。船と網を放棄して漁民たることはありえない。同じように大学というところにおいて、教室を破壊し、研究室を占拠し、教育・研究活動を停止するならば、そこには大学は存在しないのであります。

きわめて厳しい状況のなかで、我が学園の教職員と学生諸君は、大学の生命である教育・研究活動を休むことなく、責任ある実践を遂行してまいりました。これが、私どもの重要な教訓のひとつであると思っております。

我が学園の特徴を述べさせていただきますと、ビデオでも紹介させていただきましたが、本学は教学の最高責任者たる総長、および各学部の教学責任者たる学部長選挙への学生参加を認めております。

学生参加による全学協議会によって、我が学園の基本的方針を議論してまいりました。このように学園における学生の位置を一貫して重視してまいりましたのが、我が学園の歴史的事実であります。

学生を常に視点の中心に据えるということは、学園構成員の統一を促します。

学園の活性化を呼び起こします。

学園の経営を明朗にする源泉であります。

1979年より、私どもは今日まで一連の長期計画を策定

し、その計画を実行してまいりました。新しい学部の新設、学部の拡充移転、附属校の増設、そして、本年4月、ここに、立命館アジア太平洋大学を開学することができたわけでありました。

取り組んでまいりました諸事業を振り返りまして、教えていただいた教訓は多々あります。

例えば社会と時代を可能な限り、正確に認識し、政策を策定することでありました。いかなる事態であっても、大学としての生命である教育・研究の充実を守ることでありました。また、学生をつねに学園の運営において、視点の中心に据えることでありました。

立命館アジア太平洋大学の創設を決断いたしました理由は、これらの歴史的教訓と合わせまして、教育研究に携わる私どもといたしまして、未来への熱き思いであります。

私どもは、いま、21世紀を手の届くところに迎えようとしております。それぞれの場から、20世紀を部分的・一面的ではなく、総合的・全面的に総括をしながら、日本国として、日本の国民として、世界の国々と世界の人々に、真に日本と日本国民として、信頼される営為と誇り高き行動を展開しなければならないと思っております。

立命館アジア太平洋大学の開設は、世界諸国民のなかで、国際的貢献において、名誉ある位置を目指そうではないか、目指したい、目指していこう、という私どもの熱き思いであり、願いであります。

立命館の教職員は、全力を尽くして、新しい世紀に向けて、邁進する決意であります。

大学、高等学校が、真にその使命を果たすためには、多くの方々のご理解、ご支援なくして、その責務を果たすことが不可能なこともまた明白であります。

文部省のご指導とご援助、各大学が本学にお寄せいただきました変わらぬ友情と連帯、大分県、京都府をはじめとします地方自治体のご協力、河原会長をはじめと23万卒業生諸氏の後輩に対する愛情と母校愛、垣内会長と3

万名学生の父母の皆様のご支援。本学が100年の年月を歩一歩と進んでまいることが出来たのは、多くの方々の歴史的なご協力があったことでもあります。

立命館アジア太平洋大学に関しては、世界各国からのご支援、我が国の産業活動の中心を担っておられる各企業の皆様、特に、平岩先生、樋口先生をはじめとするアドバイザリー・コミッティの諸先生方の私どもの熱き思いに対するご理解とご協力があったからこそ、この新しい大学を開学できたのであります。これなくして、開学は不可能であったと申し上げても過言ではないと思っております。

設置形態は、一私学であります。プライベートであります。しかし、多くの方々から寄せていただきましたご厚意とその込められた内容は、パブリックであり、歴史的・社会的かつ普遍的価値であります。私どもは、責務の重大さを改めて痛感するものであります。高い席からではありませんが、改めて御礼を申し上げます。

最後になりましたが、大分県民、別府市民の皆様、立命館アジア太平洋大学は一貫して国際的視点で県政を進めてこられた平松知事様、国際文化学術都市を目指しておられる井上市長様をはじめとして、多くの県民・市民の皆様の温かくて深いご理解で開学をすることができました。心から御礼を申し上げます。

当然のことではありますが、過去は現在をつくります。したがって、私どもの今いる現在は過去を包括しております。過去に感謝すると同時に、現在の皆様方の物心両面にわたるご協力に対しまして、重ねて心より感謝申し上げるものであります。

今後とも立命館学園に対しまして、変わらぬご支援、ご教示を賜りますよう、お願い申し上げます。御礼のご挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。





# ● 来賓ご芳名 (敬称略)

## 国際連合・駐日大使・海外協定大学

国際連合	事務総長特別補佐官	John Ruggie
駐日オマーン・スルタン国大使館	特命全権大使	Mohammed Ali Al-khusaiby
駐日バブア・ニューギニア大使館	特命全権大使	Aiwa Elaiyes Olmi
駐日ラオス人民民主共和国大使館	特命全権大使	Thongsay Bodhisane
駐日ブラジル連邦共和国大使館	特命全権大使	Fernando Guimarães Reis
駐日エチオピア連邦民主共和国大使館	特命全権大使	Mahdi Ahmed
駐日ロシア連邦大使館	特命全権大使	Alexandre Nikolaevich Panov
駐日ネパール王国大使館	特命全権大使	Kedar Bhakta Mathema
駐日インド大使館	特命全権大使	Siddharth Singh
駐日カナダ大使館	特命全権大使	Leonard Edwards
駐日ウズベキスタン共和国大使館	特命全権大使	Shaykhov Alisher
駐日シンガポール共和国大使館	特命全権大使	Chew Tai Soo
駐日チリ共和国大使館	特命全権大使	Oscar Fuentes
駐日中華人民共和国大使館	特命全権大使	Chen Jian
駐日ギリシャ共和国大使館	特命全権大使	Elias Katsareas
駐日インドネシア共和国大使館	特命全権大使	Soemadi D.M.Brotodiningrat
駐日フィリピン共和国大使館	特命全権大使	Romeo A.Arguelles
駐日アルゼンティン共和国大使館	特命全権大使	Alfredo V.Chiaradia
駐日バングラデシュ人民共和国大使館	特命全権大使	Jamil Majid
駐日カンボディア王国大使館	特命全権大使	Ing Kieth
駐日ジンバブエ大使館	特命全権大使	Andrew H Mtetwa
駐日マレーシア大使館	特命全権大使	Dato'M.N.Marzuki
駐日ヴェトナム社会主義共和国大使館	特命全権大使	Vu Dzung
駐日ケニア共和国大使館	臨時代理大使	Daniel Koikai
駐日スリ・ランカ大使館	特命全権大使	Neville Piyadigama
駐日ミャンマー連邦大使館	特命全権大使	Aung Naing
駐日ニュージーランド国大使館	特命全権大使	Phillip Gibson
駐日大韓民国大使館	特命全権大使	Choi Sang-Yong
駐日ルーマニア大使館	臨時代理大使	Marin Valcea
駐日ペルー共和国大使館	代理大使	Juan AURICH
駐日メキシコ合衆国大使館	教育科学技術担当一等書記官	Armando Arriaga
駐日モンゴル国大使館	参事官	P.Jankhuyag
駐日タイ王国大使館	公使参事官	Itti Ditbanjong
駐日アメリカ合衆国大使館	大使特別補佐官	Kent E.Calder
駐日グレートブリテン及び 北部アイルランド連合王国大使館	文化参事官、ブリティッ シュカウンシル駐日代表	Terry Toney
American University	総長特別補佐	Michael Stopford
Dongbei University of Finance and Economics	理事長	Yu Yang
Fudan University	副理事長	Zhang Jishun
Korea University	総長	Jung-Bae Kim
Kyung Hee University	総長	Chungwon Choue
Nankai University	副総長	Wang Wenjun
Nanyang Technological University	総長	Cham Tao Soon
Peking University	副総長	He Fangchuan
Seoul National University	総長	Ki-Jun Lee
Siam University	副総長	Twee Hormchong
The University of British Columbia	副総長	Barry C. McBride
University of Hawaii	名誉評議員	Lee Ohigashi
University of Ulsan	総長	Moo-Ki Bai

## 官公庁・自治体

文部大臣	中曾根弘文
文部事務次官	佐藤 禎一
内閣外政審議室長	阿南 惟茂
外務省	大臣官房審議官 武藤 正敏
大分県	知事 平松 守彦

大分県	副知事	帯刀 将人
大分県議会	議長	日野 立明
別府市	市長	井上 信幸
別府市	助役	大塚 茂樹
別府市	助役	三浦 義人
別府市議会	議長	三ヶ尻正友
立命館アジア太平洋大学設置既成同盟会	会長	津末 武久
別府商工会議所	会頭	

## 国会議員

衆議院 (大分県選出)	議員	村山 富市
元内閣総理大臣		
衆議院 (大分県選出)	議員	衛藤征士郎
衆議院 (大分県選出)	議員	畑 英次郎
	代理 秘書	広原 茂
衆議院 (大分県選出)	議員	横光 克彦
衆議院 (大分県選出)	議員	衛藤 晟一
参議院 (大分県選出)	議員	梶原 敬義
参議院 (大分県選出)	議員	仲道 俊哉

## 大学関係

社団法人日本私立大学連盟	副会長	奥島 孝康
早稲田大学	総長	
財団法人大学基準協会	事務局長	三宅 恭二
愛知大学	学長	武田 信照
跡見学園女子大学	学長	山崎 一穎
大分県立看護科学大学	学長	草間 朋子
大分県立芸術文化短期大学	学長	鶴 元春
大分県立工科短期大学校	校長	時田 雄次
大阪学院大学	学長	白井 善康
学校法人学習院	院長・理事長	島津 久厚
学校法人芝浦工業大学	理事長	石川 洋美
学校法人活水学院	院長	廣畑 譲
学校法人関西大学	理事長	大西 昭男
学校法人関西学院	理事長	武田 建
関東学園大学	学長	柴田 弘文
学校法人木野学園	理事長	杉本 修一
学校法人九州学園	理事長	松井 健
九州芸術工科大学	学長	吉田 将
学校法人九州国際大学	理事長	紙谷 良夫
九州国際大学	学長	大里 仁士
学校法人京都産業大学	理事長	駒井 正
京都橘女子大学	学長	大南 正瑛
熊本学園大学	学長	角松 正雄
駒澤大学	学長	雨宮 真也
下関市立大学	学長	下山 房雄
西南学院大学	学長	村上 隆太
園田学園女子大学	学長	一谷 宣宏
筑紫女学園大学	学長	名本 幹雄
中央大学	学長	鈴木 康司
東京女子大学	学長	船本 弘毅
学校法人東京農業大学	理事長	松田藤四郎
学校法人同志社	理事長	野本 真也
学校法人同志社	総長	松山 義則
東北学院大学	学長	倉松 功
学校法人東洋大学	理事長	塩川正十郎
苫小牧駒澤大学	学長	大久保治男
学校法人長崎総合科学大学	理事長	長山 明

長崎総合科学大学 学長  
 日本文理大学 学長  
 梅花学園 理事長  
 福岡工業大学 学長  
 福岡国際大学 学長  
 学校法人福原学園 理事長  
 学校法人文理学園 理事長  
 別府大学 学長  
 法政大学 総長  
 学校法人溝部学園 理事長  
 南九州大学 学長  
 武蔵野美術大学 学長  
 学校法人明治大学 総長  
 龍谷大学 学長  
 流通経済大学 学長  
 亜細亜大学 学長  
 代理 副学長  
 大分短期大学 学長  
 代理 学生部長  
 京都産業大学 学長  
 代理 学長補佐  
 学校法人京都橘女子学園 理事長  
 代理 法人事務局長  
 学校法人熊本学園 理事長  
 代理 事務局長  
 熊本県立大学 学長  
 代理 事務局長  
 学校法人久留米大学 理事長  
 代理 副理事長  
 慶應義塾大学 塾長  
 代理 経済学部長  
 学校法人甲南学園 理事長  
 代理 常務理事  
 学校法人志學館学園 理事長  
 代理 総務部長  
 学校法人上智学院 理事長  
 代理 総務担当理事  
 学校法人成蹊学園 理事長  
 代理 理事総務部長  
 学校法人西南女学院 理事長  
 代理 法人事務局長  
 学校法人創価大学 理事長  
 代理 企画部副部長  
 学校法人高梁学園 理事長  
 代理 企画室室長  
 学校法人東京女子医科大学 理事長  
 代理 総務部長  
 学校法人東北学院 理事長  
 代理 常任理事  
 徳山大学 学長  
 代理 総務部長  
 獨協大学 学長  
 代理 事務局長  
 学校法人福岡工業大学 理事長  
 代理 事務局長  
 学校法人文教大学学園 理事長  
 代理 大学事務局長

白砂 剛二  
 古屋伸芳男  
 田中 繁男  
 青木 和男  
 木下 悦二  
 安藤 延男  
 菅 幸雄  
 中村賢二郎  
 清成 忠男  
 相良 範子  
 澁谷 義夫  
 長尾 重武  
 栗田 健  
 上山 大峻  
 佐伯 弘治  
 服部 正中  
 池島 政広  
 上本 俊平  
 萩本 庸夫  
 新田 政則  
 藤岡 一郎  
 渡邊 義幻  
 山岸 永一  
 北古賀勝幸  
 目黒 純一  
 手島 孝  
 山田 誠人  
 三島 重人  
 時枝 満茂  
 鳥居 泰彦  
 清水 雅彦  
 戸山 晶夫  
 深澤 知博  
 志賀 達一  
 富尾 良三  
 高祖 敏明  
 粕谷 友介  
 飯田庸太郎  
 傳田 忠雄  
 中井 力  
 田中 綜二  
 岡安 博司  
 塩原 将行  
 加計 勉  
 加計 勇輝  
 吉岡 博光  
 岩岡 道訓  
 田口 誠一  
 赤澤 昭三  
 浅野 一郎  
 内山 義雄  
 木下 光一  
 遠井 郁雄  
 鶴木 洋二  
 大谷 忠彦  
 小尾圭之介  
 八島 宣治

松山大学 学長  
 代理 総務担当理事  
 桃山学院大学 学長  
 代理 学長室長  
 社団法人経済団体連合会 名誉会長  
 社団法人経済団体連合会 会長  
 代理 専務理事  
 株式会社さくら銀行 常任顧問  
 アドバイザリー・コミッティ 世話人  
 ローム株式会社 代表取締役社長  
 アドバイザリー・コミッティ 世話人  
 代理 取締役半導体研究開発本部長  
 前国際連合事務次長  
 日本予防外交センター 会長  
 株式会社きんでん 取締役会長  
 日清食品株式会社 代表取締役社長  
 株式会社大分銀行 代表取締役会長  
 大分商工会議所 会頭  
 株式会社栗本鐵工所 取締役相談役  
 九州旅客鉄道株式会社 代表取締役会長  
 株式会社INAX 取締役会長  
 三井建設株式会社 代表取締役社長  
 東陶機器株式会社 代表取締役会長  
 元特命全権大使 (スペイン・インドネシア・ロシア駐在)  
 元駐米国特命全権大使  
 財団法人世界平和研究所 理事長  
 リモートセンシング技術センター 理事長  
 宇宙開発事業団 顧問  
 アメリカンファミリー生命保険会社 日本における代表者・会長  
 住友重機械工業株式会社 代表取締役会長  
 大分交通株式会社 代表取締役会長  
 大分県経営者協会 会長  
 株式会社安川電機 特別顧問  
 財団法人新国立劇場運営財団 顧問  
 元文部事務次官  
 株式会社熊谷組 代表取締役会長  
 阪急電鉄株式会社 代表取締役会長  
 タバイエスベック株式会社 代表取締役会長  
 株式会社さとうベネック 代表取締役社長  
 株式会社東芝 相談役  
 株式会社山下設計 代表取締役社長  
 日本電気株式会社 取締役相談役  
 国際協力事業団国際協力総合研修所 特別顧問  
 元アジア開発銀行総裁  
 日本ヒューレット・パッカド株式会社 代表取締役社長  
 戸田建設株式会社 代表取締役会長  
 財団法人国際経済交流財団 会長  
 前日本貿易振興会理事長  
 日商岩井株式会社 相談役  
 大成建設株式会社 代表取締役社長  
 藤沢薬品工業株式会社 取締役相談役  
 株式会社堀場製作所 取締役会長  
 株式会社川島織物 取締役相談役  
 株式会社クボタ 相談役

企業等

比嘉 清松  
 穴戸 邦彦  
 村田 晴夫  
 今木 秀和  
 平岩 外四  
 今井 敬  
 和田 龍幸  
 末松 謙一  
 佐藤研一郎  
 高須 秀視  
 明石 康  
 荒巻 恭士  
 安藤 宏基  
 安藤 昭三  
 五十嵐 力  
 石井 幸孝  
 伊奈 輝三  
 稲村 一弘  
 江副 茂  
 枝村 純郎  
 大河原良雄  
 大澤 弘之  
 大竹 美喜  
 小澤 三敏  
 小野 浩  
 菊池 功  
 木田 宏  
 熊谷太一郎  
 小林 公平  
 小山 榮一  
 佐藤諱之助  
 佐藤 文夫  
 柴田 寛二  
 関本 忠弘  
 垂水 公正  
 寺澤 正雄  
 戸田順之助  
 豊島 格  
 西尾 哲  
 平島 治  
 藤澤友吉郎  
 堀場 雅夫  
 南 莊郎  
 三野 重和

株式会社アステム	代表取締役社長	吉村 恭彰
株式会社山下設計	特別顧問	村瀬 光正
株式会社熊谷組	取締役副社長	江川 正純
不動建設株式会社	代表取締役社長	市吉 正信
株式会社京都銀行	会長	秋元 満
	代理 取締役副頭取	小山 剛
東急建設株式会社	取締役社長	井原 國芳
	代理 取締役副社長	古林利三郎
鹿島建設株式会社	代表取締役社長	梅田 貞夫
	代理 代表取締役副社長	小島 雄
ソニー株式会社	代表取締役会長	大賀 典雄
	代理 副社長	小寺 淳一
九州電力株式会社	代表取締役会長	大野 茂
	代理 理事・大分支店長	吉田 省三
同和火災海上保険株式会社	取締役会長	岡崎 真雄
	代理 京都支店長	山田 巨良
住友電気工業株式会社	相談役	川上 哲郎
	代理 代表取締役副社長	関 收
大日本印刷株式会社	代表取締役社長	北島 義俊
	代理 専務取締役	中村 健一
株式会社トキハ	代表取締役名誉会長	上妻 亨
	代理 専務取締役別府支店長	上妻 浩
株式会社鴻池組	取締役社長	鴻池 一季
	代理 取締役副社長	阿部 陽一
株式会社西日本銀行	代表取締役会長	後藤 達太
	代理 大分地区担当取締役事務本部長	釜 洋輝
九州松下電器株式会社	取締役社長	坂井 囃
	代理 人事課副課長・グループリーダー	沓脱 宏司
日鉱金属株式会社	代表取締役会長	坂本 卓
	代理 佐賀製錬所長	末永 近志
株式会社福岡シティ銀行	代表取締役頭取	四島 司
	代理 大分支店長	高松 芳弘
株式会社九電工	代表取締役会長	白石 司
	代理 大分支店長	夏秋 幸陽
株式会社第一勧業銀行	頭取	杉田 力之
	代理 常務取締役	松波 寛
株式会社住友銀行	特別顧問	巽 外夫
	代理 専務取締役	奥山 俊一
株式会社福岡銀行	取締役会長	佃 亮二
	代理 大分支店長	多田 真治
株式会社島津製作所	相談役	西八條 實
	代理 九州支店長	貝塚 勝也
大分瓦斯株式会社	代表取締役社長	福島親比古
	代理 代表取締役専務	福島 知克
凸版印刷株式会社	代表取締役社長	藤田 弘道
	代理 専務取締役	城所 宏至
東レ株式会社	代表取締役会長	前田勝之助
	代理 理事・人事部長	今村 晋介
キャノン株式会社	代表取締役社長	御手洗富士夫
	代理 大分キャノン株式会社代表取締役社長	北村 豊信
富士通株式会社	名誉会長	山本 卓真
	代理 専務取締役	鈴木 勲
Yuchengco Center for East Asia of De La Salle University	President	Dr. Wilfrido V. Villacorta
Jawaharlal Nehru University	Professor Emeritus	Dr. Satya Bhushan Verma
立命館韓国事務所	名誉所長	Jung Hyun Kim
国際大学	教授	
グローバル・コミュニケーション・センター	所長	公文 俊平
東京電力株式会社	顧問	
前駐中華人民共和国 特命全權大使		佐藤 嘉恭

## 立命館関係

学實	中川 重一
西園寺家	西園寺一晃
名誉役員	谷岡 武雄
	西村 清次
	村上 二郎
名誉館友	川本 八郎
理事長	長田 豊臣
総長	坂本 和一
立命館アジア太平洋大学長・副総長	佐々木嬉代三
副総長	田中 道七
副総長	甲賀 光秀
専務理事	久岡 康成
常務理事	井上 純一
常務理事	若林 洋夫
常務理事	西脇 終
立命館アジア太平洋大学副学長・常務理事	伊藤 昭
立命館アジア太平洋大学副学長 (理事)	慈道 裕治
立命館大学 法学部長 (理事)	大河 純夫
立命館大学 経済学部長 (理事)	山田 彌
立命館大学 経営学部長 (理事)	千代田邦夫
立命館大学 産業社会学部長 (理事)	篠田 武司
立命館大学 国際関係学部長 (理事)	安藤 次男
立命館大学 政策科学部長 (理事)	石見 利勝
立命館大学 文学部長 (理事)	杉橋 隆夫
立命館大学 理工学部長 (理事)	谷口 吉弘
立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部長 (理事)	鈴木 絲子
立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋マネジメント学部長 (理事)	近藤 健彦
理事	植松 繁一
理事	大南 正瑛
理事	岡 泰造
理事	河原 四郎
理事	鈴木 正三
理事	高木茂太市
理事	高橋宗治郎
理事	竹上 和夫
理事	柗 茂
理事	道端 進
監事	竹内 貢
監事	虎谷 正人
監事	羽賀 孝
評議員会議長	中川 祐夫
立命館中学・高等学校長	後藤 文男
立命館宇治高等学校長	川崎 昭治
立命館慶祥中学・高等学校長	高杉 巴彦
元副総長	岩井 忠熊
元副総長	芦田 文夫
元常務理事	松岡 正美
元常務理事	畑中 和夫
元常務理事	吉田 幸彦
元常務理事	亀田 晃巖
立命館大学校友会長	河原 四郎
立命館大学父母教育後援会長	垣内 剛
故 早崎治氏ご令室	早崎 瑠美
故 足羽慶保氏ご令室	足羽 史衣

# 祝賀会

# Celebration

—喜びと感謝の気持ち—



## Congratulatory Speeches



ソウル大学長  
キージュン・リ 様

Ki-Jun Lee

### グローバル化を推進するアジア初の機関の設立

川本理事長、長田総長、坂本 APU 学長、そしてご来賓の皆様、本日はこのような記念すべき式典にお招きいただき、誠に光栄に存じます。立命館アジア太平洋大学の創設と立命館アカデミーの 100 周年を祝う記念式典にあたり、ソウル大学を代表いたしまして心よりお祝い申し上げます。

私どもソウル大学と立命館大学は 1997 年 1 月に協定を結び、以来、学術交流を通じ友好関係を築いてまいりました。近年になりまして、アジア、特に日本と韓国の多くの大学が、このようなグローバルネットワークの構築に並々ならぬ力を注いでおります。

こういった大学は、現代のグローバル化社会の状況にあわせて、教育・研究レベルの向上を目指しております。特定の国、文化、地域、あるいは歴史に焦点を当て、研究を進めている様々な大学の間グローバルネットワークを構築することにより、学生や教授がグローバル化を十分理解し、その上で社会に貢献することができるのではないのでしょうか。

このたび立命館大学は、このようなグローバル化を推進するためのアジア初の機関を設立し、多くの大学に模範を示されたわけですから。立命館アジア太平洋大学という、日本独特の文化を慈しみ、かつグローバルな視点を持った大学が設立されたことは非常に意義のあることと存じます。

立命館アジア太平洋大学には限りない可能性があります。日本のみならずアジア全域において、この大学はグローバル化の手本であり、今後重要な役割を果たしていくことでしょう。

この点に関し、アジア太平洋地域における優秀な大学の代表者の皆様、私と同じ考えをお持ちであることを確信しております。

ここに改めて、ソウル大学を代表いたしまして、立命館アジア太平洋大学の設立を心よりお祝い申し上げます。

最後に、立命館大学とソウル大学が今後さらに緊密な関係を築いていくことを祈っております。



財団法人新国立劇場運営財団顧問 元文部事務次官  
木田 宏 様 KIDA Hiroshi

## アジア太平洋地域の国際協力の成否を左右する 本格的な国際大学

歴史と伝統を誇る立命館が、この度開学された立命館アジア太平洋大学の発足を、大学改革の積極的な柱として、国際社会に羽ばたこうとしておられます。先の式典において、このことは明確にうかがうことができました。誠にめでたうございました。

この立命館アジア太平洋大学は、ここに迎える留学生数の規模において、また、50カ国に及ぶその広がりにおいて、わが国にこれまで類の無かった本格的な国際大学であります。

この大学の成否は、そのまま、アジア太平洋地域の国々から始まる国際協力の成否を左右するもの、また、占うものであると考えます。

ここに、多くの国々の元首や大使閣下を始め、各界の錚々たる方々が、本学の発足と発展を熱心に見守って下さる所以がございます。

それ故、本学の教職員諸氏の責務は、誠に大きいものがあると考えます。また、本学に学ぶ内外の学生諸君が、その学習と、学生生活を通じて、友好と国際親善の実を挙げて下さらなければなりません。

長い間、この大分の地に素晴らしい大学の創設を待ち望んでおられた平松知事、井上別府市長はじめ、地元の方々のお喜びもさぞかしと存じますが、是非、本学に温かいご支援を頂いて、国際協力の基をこの地に築いて頂きたいとお願いして、お祝いのご挨拶と致します。



駐日オマーン国特命全権大使  
モハメド・アリ・アルフセイビ 様  
Mohammed Ali Al-khusaiby

## 深い英知から生まれた 理想的未来像の着想

川本立命館理事長、長田立命館総長、坂本立命館アジア太平洋大学長、平松大分県知事、井上別府市長、海外大学長の皆さま、ご来賓の皆さま、駐日大使閣下各位

本日は、立命館創始130年・学園創立100周年、立命館アジア太平洋大学開学を皆様とともに祝うためにここに集いました各国駐日大使を代表してご挨拶申し上げますことを大変光栄に思います。名実ともに美しく立派なこの最高学府がこの地に今そそりたっていますが、理想を現実のものとするべく努力を重ねて来られたすべての皆様に心からお祝い申し上げます。

幾世代にもわたって受け継がれるような、理想的未来像の着想には深い英知を必要とします。地域間の共生と学术交流を組織的にその地域の宝として育て、見守り促進するということを通して、立命館アジア太平洋大学はアジア太平洋地域全体に共通の利益と将来的発展を培うものと確信します。

大いなる使命と目的を持つ立命館アジア太平洋大学は、ほかでは見られぬ独創的な舞台を別府に置き、ここにはあらゆる地域から学生が集います。この共同体のあり方は今の国際社会の性格や姿を非常に適切にとらえています。今後、立命館アジア太平洋大学は我々が共通に持つべく将来的視野や目的を明らかにしてゆき、実現にむけての協力の在り方を築く道筋を数多く示していくものと思います。

アジア太平洋地域で始まる、この新しい試みは必ずや世界の他の地域の良き見本、先陣となることでしょう。私共は今一度、全てのご関係者の類い希なるご尽力をここに讃え、立命館アジア太平洋大学の成功と発展を心からお祈り申し上げます。

## Greeting



立命館アジア太平洋大学長・立命館副総長  
坂本 和一

SAKAMOTO Kazuichi

### 多文化交流空間から創造的人材を輩出

本日は、大変ご多忙の中、国内外の大変重要な任務を担っていらっしゃる多くの方々がこうして立命館学園創立100周年、立命館アジア太平洋大学開学の記念式典にご臨席を賜りまして、改めまして心より御礼申し上げます。

私ども立命館学園は、21世紀においてはアジア太平洋地域が世界史の上でより一層大きな役割を果たすことになるであろうとの認識にたち、日本の高等教育機関としてこの新しい時代にどのような創造的貢献ができるかを真摯に考えてきました。そして、アジア太平洋地域の若者と、アジア太平洋地域に関心をもつ世界中の若者が共に集い、共に学び、そこから21世紀の世界のリーダーとなるべき有為の人材が育っていく大学を開設したいと考えました。また、この事業をとおして、21世紀に向けて差し迫った課題となっている日本の大学の国際化に向けて、ひとつの先進的モデルを提案したいと考えました。このような立命館学園の志と検討結果の結実が、立命館アジア太平洋大学であります。

このような立命館アジア太平洋大学の趣旨に対して、本日の式典にご臨席賜りました皆様方をはじめ、日本国内はもとより、世界中の、様々な分野の広範な方々より、大きな共感とご支援をいただきました。このような社会的、世界的な大きなご支援とご協力で支えられて、この4月立命館アジア太平洋大学は計画どおり開学することができました。改めまして、この立命館アジア太平洋大学の開学にご協力、ご支援いただきました皆様方に、学校法人立命

館と立命館アジア太平洋大学を代表して、深く感謝申し上げます。

立命館アジア太平洋大学の最大の特徴は、それが世界の50近い国と地域からの学生諸君が作り出す多文化交流空間であるということです。さらに、教員もその半数が世界各地より集まっております。このようなキャンパスこそが21世紀における国際的人材を養成する必須の環境条件であります。

多様な文化の交流が新しい文化や文明、創造的人材を生み出し、人類社会の進歩に貢献してきたことは、人類の長い歴史で幾度となく経験したことであります。世界の多様な文化が日常的に交流するこの立命館アジア太平洋大学のキャンパスから、21世紀を飾る様々な新しい文化や創造的な人材が次々と育っていくと確信しております。またそれが、この新しい国際大学の開設をご支援いただきました国内外の広範な方々の強い期待であることを、私たちは自覚しております。

私ども立命館アジア太平洋大学関係者は、この新しい国際大学の基礎を磐石のものにすべく、これから一層全力を集中して努力してまいる所存でございます。

これまで本学の開設をご支援いただきました皆様方におかれましては、今後とも本学の発展をお見守りいただき、変わらぬご教示、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



# APU開学祭



# APU Opening Festival

大分から世界に向けて  
国際交流の新たなステージが開かれる



● ネットアート

# 1,000名の子どもたちと手を取りあって——

たくさんの園児たちがチューヤンと一緒に巨大ネットアート  
 作りに大奮闘しました。作品は、世界中の子供たちが仲良く  
 遊んでいる姿をイメージしています。



● 交流ステージ

## アジア太平洋の熱気を体感!

学生や市民が繰り広げるダンスやショーに観客の目は釘づけになりました。また、この日はAPU学生が独自で考えた「APUダンス」も初披露されました。

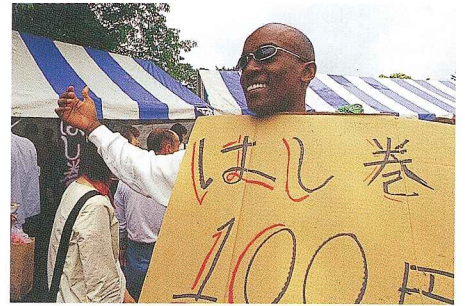


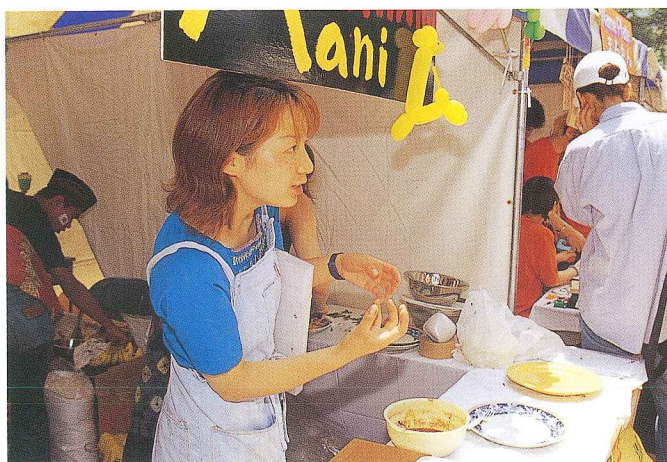


●APU学生模擬店

## 文化が融合 笑顔は世界共通

2学部34クラスが出店した模擬店。昔なつかしい駄菓子や、アジアの料理・雑貨など各クラスさまざまな嗜好を凝らしたお店が勢揃いしました。

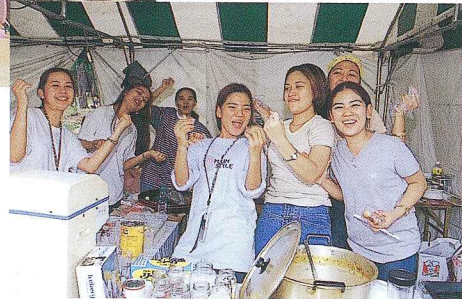




●アジアンキッチン&フリーマーケット

## 市民と喜びをわかちあいながら

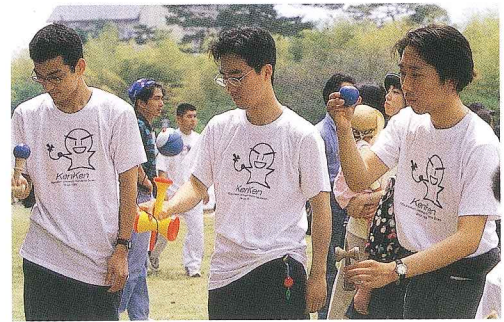
大分県下からたくさんの皆さんに参加していただきました。地域の人たちとの交流スペースとして多くの人たちが賑わいました。



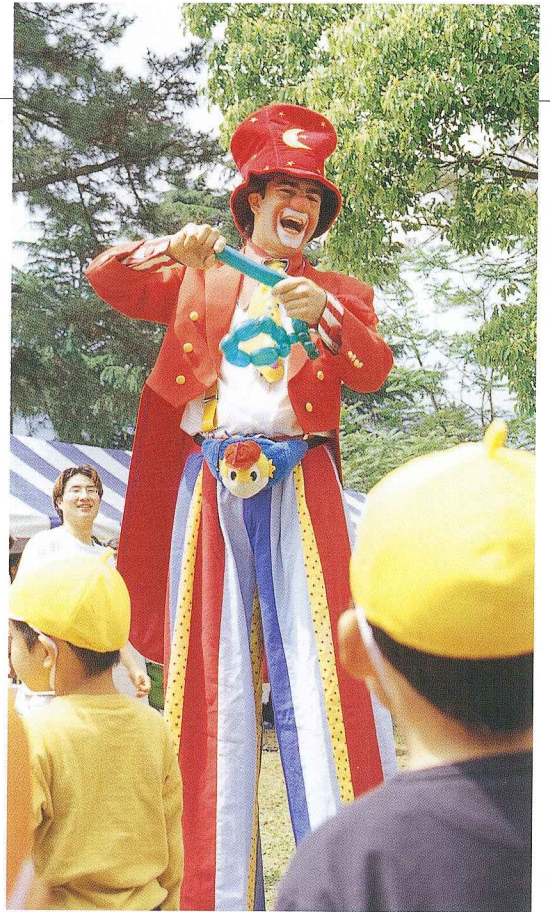
● 学生パフォーマンス&大道芸&「立命館」展&大物産展

## そして会場は歓声に包まれた

「出前ちんどん」やピエロが会場を練り歩き、けん玉研究会も場を盛り上げてくれました。また、立命館100年の歩みをパネル紹介するコーナーも設けられました。







● 学生ステージ&校友会コンサート

# 限りない感謝の気持ちと願いを込めて

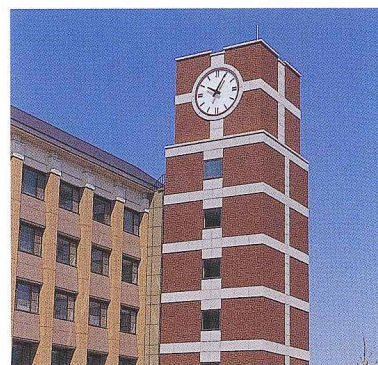
立命館大学の学生によるすばらしい演奏や演技に拍手喝采!!  
校友会コンサートでは皆、昔を懐かしむように曲を口ずさんでいました。





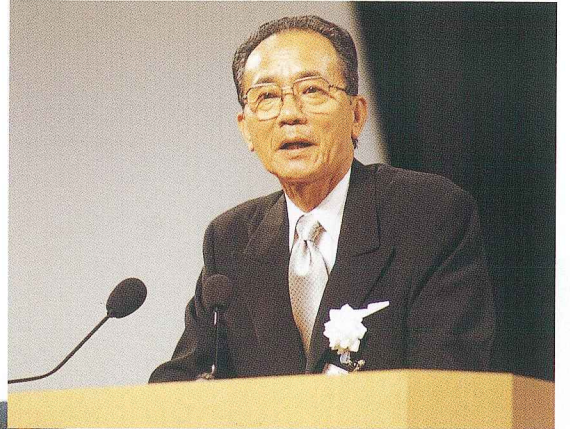
校友大会・校友会コンサート／父母教育後援会総会／  
APU父母懇談会／APUキャンパス見学会

校友・父母・地域の皆さまに  
支えられて



### 母校の新たな旅立ちを祝い 約2000名の校友が全国から参加

5月20日記念式典に引き続いて行われた校友大会第一部には、過去最大規模であった昨年度の大会をはるかに上回る、約2,000名（内教職員約300名）の校友が参加。さらに第二部として別府公園で開催された「校友会コンサート」も校友・市民など多数の観客で埋まりました。またAPUのキャンパス見学会にも数多くの校友が参加し、全国の校友5,284名から寄せられた募金（1億円）で贈られた正門の前で、記念撮影をおこなう姿が見られました。

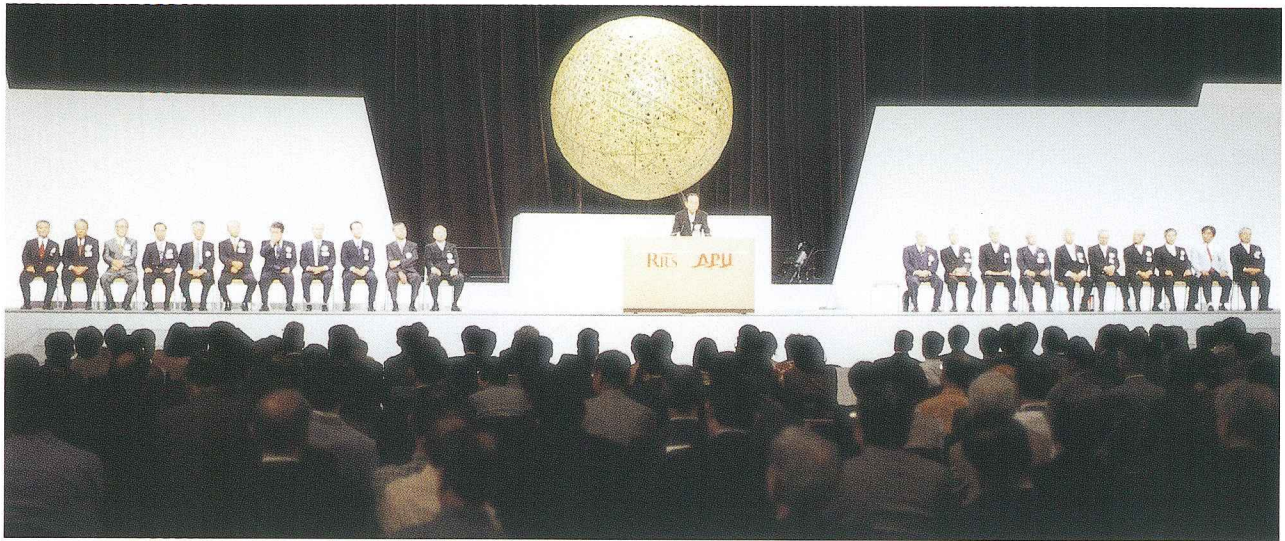


河原 四郎 校友会長



ばんば ひろふみさん・杉田 二郎さん（校友）、小室 等さん（友情出演）





民謡歌手  
大野 実佐子さん(校友)



中国古箏奏者 伍芳さん(校友)



## 父母の強力な後押しを得て より充実した教学環境を実現

2000年度の父母教育後援会総会は、記念式典にあわせて開催し、約300名の父母が参加しました。垣内剛会長の挨拶で始まった総会では、1999年度の事業・決算報告や2000年度の事業計画・予算の審議・採択がおこなわれ、2000年度の役員を選出。新会長には宮本郁夫氏が選出されました。総会終了後「和太鼓どん」による演奏で始まった父母教育懇談会では、立命館大学の教学内容および進路・就職状況の説明を実施。会場外には父母のための相談コーナーも開設されました。



宮本 郁夫 新会長





垣内 剛 会長





### 父母の暖かい目でAPUを応援

5月20日、記念式典会場のビーコンプラザに隣接したニューライフプラザ（大分県生涯学習センター）において、APUの学生の父母を対象とした懇談会が開催されました。入学式直後におこなわれた懇談会に続き、2回目となるこの懇談会には131人が参加。APUでの学生生活の様様を収録したビデオの上映や大学の内容に関する説明の後、教育内容や課外活動についての活発な質疑応答が行なわれました。





慈道裕治 立命館アジア太平洋大学副学長



## アジア太平洋を見渡すキャンパスを世界中から約5,000人が見学

5月19日から21日にかけて、国内外から開学式典に参加された来賓、九州を中心に全国各地からバスをチャーターして訪れた校友や父母、また別府市民などを対象としたAPUのキャンパス見学会が実施されました。特に20日は式典会場からキャンパスまでの区間でシャトルバスを運行し、3日間の見学者は延べ5,000人にのぼりました。参加者はスタッフの案内のもと諸施設を見学し、教育・生活の環境設備が整ったキャンパスで、記念撮影をする光景が随所で見られました。





---

立命館創始130年・学園創立100周年記念

立命館アジア太平洋大学開学 行事記録

発行日 2000年10月10日

編集 立命館大学広報課

発行 学校法人立命館

住所 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

T E L 075-465-1111(代)

HP.URL <http://www.ritsumei.ac.jp>

印刷 大日本印刷株式会社

---

学校法人 立命館